



梅の便りが届く頃となりました。すいれんの池のそばの紅梅と白梅もつぼみを大きく膨らませています。季節は確実に春に向かって進んでいます。しっかり力をつけて進級できますよう教職員一丸となって支えていきます。

◇1. 2年ふれあい活動◇

6日(月)2時限目に港晴地域の三つの老人クラブの方にお越しいただき、1・2年生と保護者の方々とで三世代交流をします。子ども達の登校の様子を見守ってくださったり、本の読み聞かせに来てくださったりしている方々との交流です。

◇国際親善女子

車椅子バスケットボール大会観戦◇

9日（木）～11日（土）に、大阪市中央体育館でオーストラリア、オランダ、イギリス、日本の選手達が親善試合をします。本校では9日（木）に5年が日本 vs オランダの試合を観戦します。ルールは一般のバスケットボールとほぼ同じです。迫力あふれるプレーを間近で観戦し、選手たちの姿から大切なことを学んでくれることでしょう。なお、期間中の試合観戦は入場無料となっております。

◇築港中学校生徒会交流◇

13日(月)は築港中学校の生徒会のみなさんが小学校に来てくれて、6年との交流をします。中学校進学にあたっての不安や心配ごとについて子どもの声を聞き、中学生がそれに答えてくれる予定です。先輩方からどんな話を聞けるのか楽しみです。中学校入学に当たって、もし不安があるようでしたら、いつでも進学先の中学校へお問い合わせください。

日	曜	学校行事
1	水	たてわり全校清掃
2	木	たてわり全校清掃 家庭科出前授業5年6h (磯路小より)
3	金	C-NET
4	土	
5	日	
6	月	新1年入学説明会 ふれあい活動1,2年2h
7	火	【委】
8	水	
9	木	5年車いすバスケット (9:20~12:00)
10	金	C-NET 給食後下校
11	土	建国記念の日
12	日	
13	月	生徒会交流(14:40~15:25)
14	火	【代】
15	水	6年おくすり講座5h
16	木	6年卒業遠足
17	金	3年社会見学 (住まいのミュージアム・キッズプラザ) 5年理科出前授業(電磁石) C-NET
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	クラブ見学会3年【ク⑭】
22	水	
23	木	
24	金	給食後下校
25	土	土曜授業 (卒業を祝う会・学習参観・茶話会)
26	日	
27	月	6年税の教室3h
28	火	【ク⑮】最終

◇第6回土曜授業◇

25日（土）の本年度最後の土曜授業は、「授業参観」「卒業を祝う会」「PTA茶話会」を予定しています。「卒業を祝う会」は、いわば子ども達の手作りの卒業式です。これまでお世話になった卒業生に、在校生が感謝と激励の気持ちを歌や言葉にして伝えます。子ども同士の心が交流しあうとても温かな集会なので、ぜひ、保護者の方々にも参加していただきたいと考えています。

「卒業を祝う会」の後は、PTA学級委員会の方々が中心となって「PTA茶話会」をします。学級担任と共に、一年間をふりかえってお話をしてください。子ども達は、「PTA茶話会」終了に合わせて下校となります。

なお、詳しい時程は後日配付のご案内をご覧ください。

※ 卒業式は3月22日（水）です。1～4年は休校となります。



港晴ほめ達のススメ（不定期連載）

「ほめ達（ほめる達人）」になろう！！

ほめた人もほめられた人も幸せになろうと「ほめる達人（ほめ達）検定」と言うのがあるそうです。目の前の小さな価値を見つけることを大切に、短所も前向きにとらえてそして、「おべんちゃら」とも「おだてあげ」とも違う「心からほめる合うこと」で、みんなが笑顔で仲良く暮らせるようにしようとしています。

「ほめてばかり」や「叱ってばかり」では、子ども達は育ちません。「ほめること」と「叱ること」は表裏一体の関係であって、どちらも必要です。しかし、叱られてばかりだと子どもの自己肯定感は、なかなか育ちません。それだけでなく、テレビ番組や雑誌などで、また、SNSなどで、人を簡単に「なじる」「けなす」といったネガティブな言葉が飛び交う時代です。それらの言葉が、「叱る」ときに使われて、正論のように見えたとしても、それは、ただ人を攻撃して心を傷つけるだけの行為でしかありません。

港晴小学校の子ども達には、ほめる達人に育ってほしいと願っています。それには、まず、私たちおとなができるところから実践して行きたいです。

港晴ほめ達のススメ（1） 本人の気づかない箇所をほめる。

子どもに限らず、ほめられれば誰だって嬉しいはずです。ほめる目的は、相手のよい箇所を指摘して、自信を持たせることです。特別なことだけでなく、本人が自覚していない日常のちょっとしたよい行いや態度そして努力の結果をほめることが大切だと考えています。本人が気づかなかったところを「よい」と指摘されると、『そうか、そうだったのか』と改めて自分の行為を意識するようになります。その「子どもの気づき」が自発的に努力しようとする気持ちの源になります。